

序 章

家政女学校の設立

本学園が呱呱の声を挙げたのは、1904年（明治37年）のことである。浄土宗界の高徳と仰がれた獅谷佛定師は、明治の急激な近代化の波の下で利己主義や無神論が横行する中、女子教育の必要性を痛感し、知恩院信徒坂根弥兵衛等とともに、婦徳の涵養を趣旨とした高等家政女学校を京都・烏丸松原の因幡薬師の境内に設立した。

高等家政女学校が開校されるや、三宝帰依の仏教精神に基づく教育方針は、時の京都市民に広く理解されて生徒数は急増し、高い社会的評価が確立された。

しかしながら、1912年（大正元年）、大島徹水師が本学園の主幹になったころは、生徒数は増加するが、経済の余力が無く、あわや廃校となりかけた。この難局にあつて、大島主幹は坂根弥兵衛を始め篤信の同志と計らって存続を決議し、大雲院の境内を借りて新校舎を移転建設することとなり、有志の寄付を募って新天地を開いた。その後、1934年（昭和9年）に至つて、現在の東山仁王門の地に進出し、爾来、私学としての地歩は確固たるものとなった。

戦後の発展

第二次世界大戦の後、教育界は混乱の時期を迎え、その中で従来の女学校を中学校（義務教育）と高校に分離し、学科内容の再編成を迫られた。この過程にともなう学校施設の拡充整備は困難をきわめ、京洛の女学校・中学校の中にはその姿を消したものもあつた。本学園は、新学制下、1947年（昭和22年）に家政学園中学校、1948年（昭和23年）家政学園高等学校として無事に再出発することができた。更に1953年（昭和28年）には家政学園附属幼稚園を設立した。

1960年（昭和35年）に、故大島徹水師の悲願であつた家政学園短期大学（家政科）が開学（翌年京都家政短期大学に名称変更）し、1962年（昭和37年）に服飾意匠科、1966年（昭和41年）には幼児教育科を設置した。1965年（昭和40年）から1967年（昭和42年）にかけて短期大学キャンパスを宇治市槇島町の現在地に移転した。1982年（昭和57年）には、男女共学の京都文教短期大学付属小学校を東山仁王門に開校した。

校名については、1980年（昭和55年）に短期大学と幼稚園、1995年（昭和60年）中学・高校、そして2002年（平成14年）に学校法人名を京都文教と逐次統一し、現在に至っている。

大学設立の沿革と特色

京都文教大学の設置構想は、1990年（平成2年）に京都文教短期大学が創立30周年を迎えるにあたり、21世紀に向けた学園の将来構想として、大学院を含めた4年制大学の設立を策定、この実現に向けて光暁館、同唱館の建設に着手したことに始まる。

1990年（平成2年）、本学園は大橋俊有学園長・短期大学学長（当時文部省私立大学審議会委員、学校設置・学校法人審議会委員）を失う悲運に遭いながらも、この工事は、1991年（平成3年）に完成し、同年8月に学園内に大学設置検討委員会が設けられ、大学の基本理念と設置構想の策定作業に着手し次の通りの結論を得た。

仏教精神にもとづく「人間」教育という本学の創立理念を生かしたものであること。

人間の「心」、「行動」、「文化」を主題とする学問・教育のトポス（場）として設立するものであること。

豊かな教養と人格を備え、幅広い視野と専門的能力を有して、人類社会の発展に寄与・貢献する人材の育成を目指すこと。

学術研究の進展、社会経済の発展に伴う新たな需要に対応する、極めて必要性の高い分野で、かつ近隣に類似の学部・学科が十分に設置されていないものであること。

男女共学の大学にすると共に、地域社会・市民に広く「開かれた大学」を実現すること。

四年制大学の設置にとどまらず、続いて大学院を設置する枠組みの中で全体構想を考えること。

このような基本構想を踏まえ、大学設置検討委員会は、「文化人類学科」と「臨床心理学科」の2学科からなる「人間学部」の設置案をまとめ、当時、本学学術顧問の梅棹忠夫、川喜田二郎、河合隼雄、樋口和彦（現学長）諸氏のご指導のもと、1993年（平成6年）本学園理事会の決議を経て設置申請を行い、1996年（平成8年）京都文教大学人間学部の開学に至った。

引き続き、1999年（平成11年）6月、大学院の設立をめざし、文化人類学研究科および臨床心理学研究科からなる大学院修士課程の設置認可申請を行い、2000年（平成12年）4月に開設をみた。更に、2002年（平成14年）には、臨床心理学研究科博士後期課程が設けられ、ここに創立以来の念願である総合学園としての一步を踏み出すこととなった。そして、2004年（平成16年）4月には「現代社会学科」を設置した。

附置施設

大学の設置に伴い、本学の教育・研究目標を達成するための一方策として、次の附置施設が設けられた。

1．人間学研究所

人間学研究所は、「人間学の総合的な学術研究を行うことを通じて、文化の発展に寄与する。」ことを目的とし、大学の設置と共に1996年に設置された。本学が、文化人類学科、臨床心理学科という学科からなるユニークな大学として開設された経緯を踏まえ、学際的テーマを追求し、その成果をアカデミック・ワールドに向けて発信することを意図している。各学科スタッフを中心にした共同研究プロジェクトを通じ、宗教と癒し、ジェンダー、神話、生と死、脳と心、パフォーマンスアナリシス、家族、京都論など多彩な研究が行われている。数年間に亘って国際的共同研究「グローバルジャパン：日本の外にある日本」等、国内外研究者との連携も図られている。これらの成果は刊行され、関連学会からも評価を得ている。これらを生き方や社会のあり方を考える上で有意義なテーマとして、公開講座やシンポジウムなどを通じ社会に発信をしている。

2004年4月からは現代社会学科が設けられ、新しいスタッフも加わり、今後更なる活動が期待される。

2．心理臨床センター

心理臨床センターは、「心理臨床の実際にかかわる研究を深め、その成果を京都文教大学の教育に還元するとともに、社会一般の相談援助に資する。」ことを目的として、1997年に仮設置され、1998年4月に正式発足した。心理臨床に関わる学術調査・研究およびその成果の発表と刊行、社会一般の人々に向けた心理臨床活動とそれにもとづく理論の体系化、心理臨床にかかわる専門家に対するスーパーヴィ

ジョン、研究会および講演会の開催等を、事業内容としている。

尚、2000年（平成12年）4月、大学院修士課程の設置後は、大学院生がスーパーバイザーのもとで、
対一の個人指導を受けながら臨床経験を積むという、訓練機関の機能も担っている。心理臨床センターでは、心を大切にしたい地域社会創成への貢献を目指し、個別相談の他に一般向けの心理セミナーや心の支援に関わるボランティア養成セミナー、専門家向けの心理臨床研修セミナーなどの公開セミナーにも力を注いでいる。